令和8年 第8回 木古内町教育委員会

議　事　録

- 開催日時　　令和8年8月27日（木）　10:00-12:30
- 場　　所　　木古内小学校
- 出席委員　　竹田光伸 委員、古城美佳 委員、手塚和宏 委員、西山敬二 教育長
- 事務局　　ひとづくり未来課　中村課長、寺井主査
- 小学校　　長谷川校長、木谷教頭
- 傍聴者　　0名

【学校経営方針について説明（長谷川校長 説明）】

英語教育等の体制を整備した上で、教員には評価の観点や学年の系統性を踏まえ、子どもたちの学びの状況を補完しながら日常の授業に取り組む方向性を示している。

・令和8年度 重点教育目標および設定理由
重点目標：「地域を舞台とした環境と協働を通じた自己実現に向けて、考え、行動する子ども」

背景：地域での様々な取り組みが単発に終わったり、特定の学年担任任せになったりしていた課題を改善するため。津波や水害等と向き合い生活できるよう防災安全教育を重点化するとともに、地域との協働を通じた多様な価値観への接触を日常の授業に盛り込む。

児童の実態：素直に一生懸命取り組む一方で、活動の目的や意味を結びつけて深く思考する部分に課題があるため、自ら取り組んだことが将来にどう繋がるかを主体的・実践的に考え行動できる児童を育てる。

具体的な方策

・防災・安全教育と郷土・地域学習に重点を置いたカリキュラムの再編成
・学習の基盤となる資質・能力の育成（ICTの効果的活用、家庭学習や宿題の工夫、読書活動の改善）
・協働的な学びの推進（実生活に繋がる体験的学習の充実、道徳教育における管理職や専科教員の参画など）

主な取り組み・資料の説明

小中連携：義務教育学校を見据え、9年間を見通した教育課程編成を実施。
教科横断的な学習計画：各学年の取り組みを可視化し、縦・横の繋がりを意識した指導計画を作成。実践を通じた修正・改善を重ねている。

1日防災学校（9月1日実施予定）：発達段階に応じたカリキュラム。避難訓練（中央公民館への避難）、自衛隊による炊き出し体験（身近な紙で容器を作りビニール袋を被せて使用・ゴミ処理の思考）、5・6年生と地域住民による地域防災についての対話活動等を新たに計画。子どもたちが自分の言葉で課題を話す機会とし、防災意識の定着を図る。

学習環境・生徒指導・地域連携：テスト等のエビデンスに基づく授業改善、SNSを通じたトラブルに対する人間関係づくり・道徳指導の実施、コミュニティ・スクールの小中一括運用。

学校評価と課題：教職員・児童の達成感は約7割と良好だが、保護者からの回答率が約3割と低く、学校の取り組みに対する家庭・保護者との意識共有やPTA活動等への参画促進が大きな課題となっている。

【授業参観（木谷教頭 案内）】

6年	外国語	ALT7名
2年	生活	荒木教諭
3年	算数	工藤教諭
4年	理科	合川教諭

【学校運営・安全管理に関する意見交換】

竹田委員：
教科横断的な計画書が非常に可視化されていてとても分かりやすい。防災教育についても単なる知識で終わらず、子どもたちが根拠を持って理解できる取り組みだと感じる。保護者や地域の方にも対話への参加を呼びかけている状況か。

長谷川校長：
保護者や地域の方に参加を呼びかけているが、現時点で参加回答が少なく課題を感じている。担任との個別コミュニケーションは取れているが、学校全体の大枠の活動となるとハードルが高く感じられるのかもしれない。コロナ禍以降、集まる機会が減少した影響もある。

手塚委員：

登下校中に地震や津波が発生した際の行動ガイドラインについて、具体的な想定パターンを子どもや保護者に提示できると良いのではないか。

長谷川校長：
3年生で防災マップを作成し、実際に歩いて浸水深のイメージを捉える等の学習をしている。家庭との連携が不可欠だが、子どもだけで学習が閉じてしまわず、家庭での防災意識や判断力に繋がるよう指導を工夫している。

竹田委員：
言われたからやったという単発の学びではなく、普段の授業や活動の中で過去の学びと結びつき、子ども自身が「だから自分はこう行動する」と言える意識づけを育てることが大切だ。

長谷川校長：
教員側も繋がりを意識して発問・指導するよう取り組んでおり、前期学校評価でも成果が見られ始めている。町全体としても防災意識を高めていく必要を感じている。

竹田委員：
デジタル化・SNSについて、子ども同士のグループLINE等でのトラブルも増えている。町や学校として禁止とまではいかなくても推奨しない方針を提示するなど、家庭での向き合い方を呼びかけてはどうか。

長谷川校長：
基本的には保護者の管理下にあるが、発達段階における友人関係のトラブルがSNSという手段を通して拡大しやすい。トラブル対応だけでなく、大人になる過程での人間関係の立ち振る舞いとしても指導している。

手塚委員：
SNSは世界中に繋がってしまう危険性があるため、家庭内での見守りが重要になる。

古城委員：
デジタル機器の普及に伴い、文字が綺麗に書けない子どもや、筆順・部首の理解が曖昧な子が増えている印象がある。集中力やバランス感覚の低下、また読書不足による読解力の低下が中学校以降の学習に深刻な影響を与えていると感じるが、どう捉えているか。

長谷川校長：
タイピングで解決してしまう環境もあり、手書きの課題は現場でも非常に強く感じている。家庭での使用ルールも含め、根本的な意識改革が必要とされる課題である。

竹田委員：

生成AIの活用も進む中、考えるプロセスを飛ばして結果だけを得るような使い方になってしまう恐れがある。AIを使いこなした上で独自のアイデアを構築する力を育てなければならない。

---

1. 開会

（授業参観を終え、会議室へ移動後）

木古内町教育委員会会議規則 第6条の規定により、西山教育長の宣言にて会議が開会され、進行も西山教育長がそのまま務めた。

［教育長］ それでは、ここからは定例教育委員会を開催いたします。まず、本日は小学校の訪問ということで、長谷川校長先生の方から学校経営についてお話がありました。今年で2年目ということで、1年経過した中で気づいた課題や何が必要かという点について、今年度いろいろと取り組んでいただいています。先ほどもいろいろと質問等がありましたが、やはり学校現場の先生と直接こういったお話ができるのは非常に大事なことだと思いますので、こういった機会をしっかりと継続していきたいと思っております。
また、学校現場は先週の金曜日から二学期が始まりました。特に大きな事故等もなく二学期を迎えましたが、体調を崩して休まれているという報告も先日教育委員会に入っております。そうした体調面での報告はあるものの、児童生徒に大きな事故もなく二学期を迎えられております。
今年の夏は比較的過ごしやすい日々が続いていましたが、お盆を過ぎてから少し蒸して気温も上がってきております。学校には、これからの体育や授業の中でも熱中症等を含めて気をつけていただきたいということでお話しさせていただいているところです。それでは議事に入らせていただきたいと思います。

---

2. 署名委員指名

- 今回議事録の署名委員について竹田光伸 委員を指名

  承　認

---

3. 会議録の承認について

- 事前配布された前回議事録の承認を諮り、委員から異議なしの確認

  会議録（令和8年 第7回）承認

---

4. 教育長諸報告

西山教育長：
スポーツ・地域活性化関連：9月13日の「アイアンマン」大会に向け、地域活性化起業人（株式会社アスロニアより派遣）や地域プロジェクトマネージャー（小石氏）を着任・活用し、トレイルラン、アクアスロン、ミニトライアスロンなどの「チャレンジシリーズ」を展開中。

山形県・朝日第一小学校との児童交流事業：8月14日より実施。5年ごとの交互訪問事業であり、修学旅行（鶴岡市訪問）での交流とも連携してスムーズな交流が図られた。PTAの協力に感謝。

イングリッシュキャンプ：8月19日実施。ALT10名、城西大学のフィールドワーク学生、地域店舗等の協力のもと、町内探索やクイズ等を通じて英語と町史を学んだ。

東南ブロック教育長研修会：大沼にて開催。森高校野球部監督の吉田雄人氏（元プロ野球選手）による、部活動を通じた地域活性化と甲子園を目指す取り組みについての講話を受講。

---

5. 議案

議案 第1号　令和7年度教育費関連決算状況について

中村課長：歳入についての説明

歳入合計：1,106万2,253円
（主な内訳：施設使用料 117万3,880円、国庫補助金 521万8,000円［Chromebook更新補助等］、財産収入 203万600円［教員住宅等使用料］、学校給食費 248万9,322円、雑入 74万451円）

寺井主査：学校教育関連歳出についての説明

教育総務費：事務局報酬不用額（学校支援員1名減、スクールカウンセラーの道負担申請適用）、事業費不用額（入学祝い記念品の予備費未使用、副読本のデータ校正内製化による印刷費減）、通学補助金不用額。

小学校費・中学校費：光熱水費・燃料費不用額（暖冬および節減努力）、機器使用料不用額（リース契約の更新による再再リース料値下げ）。
学習システム使用料（不用額）：従来iPad管理に使用していた有料ソフト（Jamf Pro）から、Chromebook導入に伴い無料のGoogle Workspaceへスムーズに移行できたため、更新費用分が不用額となった。

古城委員：
更新に伴い使用しなくなった旧iPadの保管・活用状況はどうなっているか。

寺井主査：
補助金を活用して町で購入したもののため、委員会で保管している。故障品以外の利用可能な端末は、Chromebookで動作しない一部のアプリ学習等で小学校などで再活用している。廃棄の際はデータ消去および物理破壊を徹底する。

竹田委員：
現在導入されているChromebookのアカウント仕様や台数はどのようになっているか。

寺井主査：
児童生徒・教員用合わせて約140台強を配備。アカウントは当初からGoogleアカウントを使用しており、スムーズに引き継がれている。児童生徒使用分については国庫補助金（2/3）を活用して整備完了した。

中村課長：社会教育・保健体育関連歳出についての説明

社会教育総務費・公民館費・資料館運営管理費：団体活動縮小に伴う補助金不用額、築40年以上経過している施設の緊急修繕に備えて確保していた修繕費の不用額。

保健体育費：スポーツ少年団等の大会参加・補助金の不用額、施設電気代不用額、スキー場の維持管理費（上部リフト停止・利用日数減少に伴う人件費等の減額）。

学校給食費：物価高騰に備えて補正予算を計上していたが、価格が比較的安定したため不用額が生じた。

竹田委員：
スキー場については、今後どのような維持・活用方針をとるのか。

中村課長：
施設自体の維持方針は継続する。従来のスキー授業としての利用は用具準備等の面から困難だが、冬場の外遊び活動や雪遊びの場として小学校等で活用・維持していく。

教育長：それでは、他に議案第1号についてご質問はございますか。 特になければ、議案第1号については原案通り承認といたします。

（委員から質問なし）**承　認**

---

6. 報告

報告 第1号 きこない防災教育フェス2026について

中村課長：
木古内町防災教育フェス2026について
日時：今週末（日曜日）10:00〜15:00
会場：公民館、スポーツセンター

内容：総務課防災担当および4町内会の避難訓練（スポーツセンターへの避難、段ボールベッド・パーテーション展示）と連携。非常食（アルファ米等）試食、新聞紙を用いた食器作成ミッションなど、大人も実効性のある防災意識を高められる体験型イベントとして実施。

西山教育長：
従来のイベント型から内容を精査し、自衛隊や消防とも連携した実践的な防災体験・啓発の場として有意義な取り組みとしたい。

---

7. その他

（1）次回会議の日程について

- 令和8年 第9回 教育委員会
- 日時 : 令和8年9月24日（木）9:30 〜
- 場所 : 中央公民館

渡島地区教育委員研修会：10月16日開催（申込締切：10月5日）。次回定例会にて最終確認を行うため日程調整を依頼。

---

8. 閉会

【教育長】全体を通してその他に何かございますか。特になければ、以上で本日の定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

署名委員　竹田　光伸

次第に戻る